

巻 頭 言



専務取締役
エンジニアリング事業部長 山田 孝雄

鉄鋼業界は、いま、建材市場へ熱い眼差しを注いでいる。

平成景気後、バブル経済崩壊の直撃を受けた産業界にあって、430兆円内需拡大期待の建設需要の堅調ぶりが心強いからである。

また、我国は、国民一人当たりの建設向け鋼材消費量が、先進諸国の中で、米国、旧西独に比べて2～3倍多く、鋼材の国内需要の50%以上が建設分野に使用されているからでもある。

この時期に、建材特集号を発刊することができ、かつ需要家各位に川崎製鉄グループの建材に関する新技术や新商品をご紹介出来ることを大変光栄に思っている。

そもそも、鋼材には、素材としてのすぐれた特性（強度、じん性、加工性）があって、建設分野における基礎資材として、構造的にも、機能的にも重要な役割を果たしているが、近年、建材市場においては、構築物の大型化、高層化の流れにあって、ますます高強度、短工期、省力などの機能面がより強く要求されるようになった。

それらに加えて、構築物の環境性や景観性を高めるデザイン面での性能が、より一層要求されるようになってきている。

鉄鋼業界は、この10年間、自動車や家電などの一般消費材向けに、各種高性能鋼材を競って開発、提供してきた。

これらの鋼材を基本とし、構築物における構造材をはじめ、外装材、内装材、外構材などの仕上材に適用した新しい付加価値建材商品としての用途開発も急速に進んでいる。

本号には、それらの中から最新の事例をいくつか選んで紹介させていただいた。

川崎製鉄および川鉄グループ各社が、素材から構造材、仕上材にいたる建材供給側の総合企業グループとしてのプレゼンスを強めていることをご理解いただくとともに、建設分野の需要家各位のさらなるご満足をいただけることを期待している次第である。